葛巻町放課後子ども教室推進事業

自治体名

岩手県葛巻町

学校数

小学校　5校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

震災による建物倒壊や死傷者、行方不明者等、大きな被害はなかったものの、発災直後からの沿岸地域に対する支援（保健師、消防士等の派遣）等を通して、防災や安全、環境等に対する関心がより高まっている。（仮設住宅数：0）

＜取組名＞　～放課後子ども教室活動～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			NPO 法人　岩手子ども環境研究所
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
	1			各町立小学校

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
		○	○	○	（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

＜取組の内容を具体的に記載＞

- 町立小学校 5 校の内、1 校は児童館が併設されているため全 4 カ所で開設しており、参加者のほとんどは1～3 年生の低学年児童。
- バスや保護者の迎えが来るまでの間の待ち時間に利用している子どもが多い。また、放課後子ども教室から、児童クラブへ行く児童もある。
- 安全管理員（2～4 名）が交代で 1 日 2 人ずつ見守り、基本的に子どもたちは宿題や教室内にある遊具等で自由に遊ぶ。
- 学校行事やスポ少での利用がない時は、体育館でバスケットやバレー、バドミントンなどの活動する場合もある。
- 公民館事業と連携し、映画上映を行う。
- 町の更正保護女性部による郷土料理教室なども不定期で開催し、郷土学習や世代間交流にも成果を上げている。
- コーディネーターには青少年の自然体験活動などを実践しているNPO法人岩手子ども環境研究所「森と風のがっこう」の職員を配置し、事業推進に協力していただいている。

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

・震災を経て、自然の脅威に対する関心が高まってきており、従来からの過疎化等の課題とも相まって、民間団体等とも連携した地域コミュニティ形成が求められている。

・放課後に大人が誰もいない場所で遊んでいると、緊急時に連絡が取れない、安否確認が出来ない等の課題が明らかになった。

◇住民等からの要望・必要な取組

・保護者の迎えやバスの時間まで、子どもたちだけで待たせるのは不安である。

・放課後の過ごし方が画一的・限定的になってきており、豊かな自然に囲まれているにもかかわらず、体験活動等の機会が不足している傾向が見られる。

・安全な遊び場所の確保と他地区の子どもと遊ぶ場所が欲しい。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・コーディネーターは NPO 法人岩手子ども環境研究所「森と風の学校」の職員に依頼をしている。

・学校の教職員には放課後子ども教室のチラシの配布（作成は町教委）や日誌の管理など現場の管理をお願いしている。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・ただ遊ぶだけではなく、普段遊ばない子ども同士で遊んだり、高学年の児童と低学年の児童で遊んだりと、交流活動の場となるようにしている。

・参加の際に、児童に名前・地区・電話番号を記入してもらい、緊急時に保護者と連絡が取れるようにしている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・子どもの学びの場、安全・安心できる居場所を作り、様々な活動を行うことができた。

・地域住民の参画により、郷土学習や世代間交流も進めることができた。

・NPO団体と連携を図り、自然体験学習にも力を入れることができた。

◇課題や今後の展望

・安全管理員の人数が少ないため、負担が増えている。

・安全管理員が 3 名しかいない教室では、学校で開催希望の日でも安全管理員の都合がつかず開催できない場合がある。可能な限り、教育委員会担当者やコーディネーターで代わりに安全管理員を務めているが、根本的な解決には至っていない。